

ふるさと探訪

県指定重要文化財

彫刻 木造聖徳太子立像 一軀



所有者 常勝寺 所在地 大沼郡本郷町字三日町454番地

本体は前後ハギ合せの漆箔像で、頭部は首柄で体部に差し込む。髪は中央で左右に分け、後に垂らして結ぶお下げ髪。玉眼を嵌入し、口唇に朱を入れる。たて襟六角のあげ頸袍で紐結びの金色縞の袷袢を着け、右手に蓮華、左手に経巻を持って立ち、沓は花先形である。いわゆる経巻太子七才像である。胎内には、「正中三年丙寅二月二十七日」（二三三六）の墨書銘があり、鎌倉時代末期の造頭であることを明示している。経巻太子像は、全国的にもきわめて珍らしく、石田茂作『聖徳太子尊像聚成』（昭和五十一年）によっても、調査千三十三体中二、三例しかない。特にこの像は年代的にも、関東北地方では埼玉県行田市天州寺の十六才孝養太子像（寛元五年銘一二四七、国重要文化財）について二番目に古く、貴重である。

像高 百二十五センチメートル